

## 令和6年度第2回多野藤岡地域保健医療対策協議会病院等機能部会 議事概要

日時 令和6年7月3日(水)

午後7時00分～午後8時00分

場所 藤岡保健福祉事務所 2階会議室

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 推進区域の設定について

- 資料1により医務課から説明
- 藤岡構想地域を推進区域に設定することについて承認された。
- 意見、質疑については以下のとおり

#### (構成員)

モデル推進区域になった場合、メリットは財政的支援が受けられるということだが、デメリットはどんなことが考えられるのか。

#### (事務局)

モデル推進区域になると、国からの支援が受けられるということなので、県としても、モデル推進区域として強く手挙げしたいと思っている。国からも、病床数の差異による申請よりも、地域として固有の課題があり、それを解決するために申請するというところに、より注目していると聞いている。

なお、モデル推進区域になるにあたって、デメリットはないと考えている。いずれ2040年に向けて、新しい地域医療構想を考えていかなければならない。そのための検討に、事前に着手できることがアドバンテージとなるだろうと思っている。

#### (構成員)

今ベッド数が過剰であるということで、当院が立場上、ベッドの削減もしくは廃止という対象になることは十分考えられることである。上野村から当院に来ると、タクシーで1万5000円程、時間にして1時間半ぐらいかかる。バスは、2時間に1本で1560円程、1時間半から2時間ぐらいかかる。もし当院がなくなってしまうと、藤岡総合病院または他の病院になるので、更に負担が大きくなる。通院が大変な奥多野地区の現状を御理解いただきたい。

昨年度までは一応黒字化の運営ができており、ベッドも8、9割が埋まっていたので、経営状態は問題ないと考えている。ただ先程言ったように、通うというのが非常に難しいということがあるので、通常対応が難しい症例にも対応する。地域のお年寄りや一人暮らしの方たちを守ることが県内唯一の国民健康保険の病院の使命だと考えているので、そのような

対応を行っており、地域住民数の割には、症例は多いということもある。

また、旧鬼石地区の開業医は0という状況の中、歯科医師も減り、近いうちに0になってしまうかもしれないので、むしろ当院としては、歯科の診療施設を作っていきたいと考えているような状況である。

さらに、埼玉県や神奈川県、東京都内の方たちが近隣の高齢者施設に多く入所してきて、当院で治療する、看取るというような対応が最近非常に増えてきている。コロナの流行時は、藤岡市のワクチン施設として対応していたし、高齢者施設でもクラスターが発生するので感染拡大を防ぐために入院対応をしていた。地域包括ケアを充実しようとする国が取り組んでいると思うが、地域包括ケアを維持するのであれば、病院は必要であろう。地域に貢献するために機能を維持したい。地域のお年寄りが80歳~90歳になり、だんだんと生活が維持できなくなった状態を当院が支えているという自負もあるので、委員の皆様の御理解をいただいて、何とか病院機能は維持していきたいと考えている。それは当院の義務であると思っている。

(部会長)

病院のベッドを減らすことが前提ではなく、これは地域医療構想でずっとやってきたことで、病院のベッドを地域の人達に有効に利用していただくために、どういう方策をとればいいのかということ念頭に議論していただきたい。

(構成員)

メリットだけでデメリットがないということであれば反対する理由はないが、病床を減らすというのは、結局、病床利用率が低下している場合ということになるのか。病床が使われていれば、そういうことはないということでしょうか。

(部会長)

ベッドを減らす前提で、この会議が進んでいるわけではない。

(構成員)

ベッドが使われていれば、わざわざ減らすという議論にはならないという理解でよろしいのなら、デメリットはないと思う。

(構成員)

最初にベッドの減少ありきの話なのかと思い、少し抵抗感を覚えたのだが、この部会でも常々問題になっていた埼玉側からの患者の流入には2つの側面がある。利用者が増えて各病院はよいかもしれないということと、言い方は失礼かもしれないが、その群馬県の人的資源、医療的資源が使われてしまっているのではないかとということが、この部会でずっと問題になっていたと思う。

群馬県からの説明を聞いても、埼玉北部の医療状況だとか、人口、ベッド数などの情報は手に入らず、俎上に上ってこなかったのが、このモデル推進区域が設定されることによって、両方の情報が入り、両地域の状況を皆で吟味できるのであれば、とてもよい機会になるのではと感じている。

ただ、ベッドを減らすことありきではないということ。現実問題として、本当に地域で困っている患者が頼りにしているところを、中央の見方だけでベッドを減らすことは、絶対にやめていただきたいと強く思う。

**(部会長)**

昨年度からオブザーバーで、熊谷と本庄保健所に参加していただいているので、そういった形では前進していると捉えていただいて、先生のお考えの通りに動くと思う。

**(構成員)**

入院患者の 26.4%が県外からということだが、問題はベッド数だけではなく、埼玉県からの救急搬送が非常に多い。夜間の搬送も多い。一時的な入院かもしれないが、そういう面も含めての検討が必要だと思う。

**(部会長)**

地域医療構想からは話がずれるが、埼玉県から救急車が来るのに橋が少ない。橋なども医療には大きな影響力があるので、群馬県から橋を渡す提案に埼玉県が乗ってもらえるとよいのだが。熊谷本庄地域と群馬県がスクラムを組んで、モデル推進区域に立候補して、Win-Winで両方がよい関係になればよいと思っている。

**(構成員)**

私もこの構想を初めて聞かせていただいた時に、財政的支援の中で、病院の再編統合した場合には上乘せの財政支援ということが書いてあったので、非常に懸念した。ただ、県からの説明や、皆様の御意見を伺った中で、病床数削減ありきではなくて、その地域の実情を考慮することが必要であると感じた。ここは山間地域があり、地域性においてもいろいろなりスク等もある。地域の皆様が安心して生活していくためには、その地域の病院の皆様の御協力が非常に重要であり、地域の実情を踏まえて、地域の医療体制をしっかりと検討していければよいのではないかとと思っている。

**(熊谷保健所)**

埼玉県の北部圏域も、推進区域としてまだ正式に決定したわけではないが、埼玉県ではここだけなので、指定される流れになっていくのかと思っている。

なぜ北部圏域が選ばれたのかというと、ベッドの空きではないかと思っている。他の圏域を見ると、マイナスの圏域が多い。この件については、来週にも県庁で担当者の会議を行い、これから具体的にどんな形で進めていくのかということを検討していくところ。9月の上旬に北部地区の医療構想調整会議を予定している。

それに先立ち、県と保健所から、関係する3つの医師会長には話をしており、今後は調整会議等を進めていく中で、意見等を聞きながら進めていきたい。

**(本庄保健所)**

藤岡保健福祉事務所、伊勢崎保健福祉事務所、本庄保健所では、令和2年度から情報交換会を開催するという流れができているが、行政サイドのみならず、医療関係機関の皆様が集まった協議会の中で、こうした議論をしていただくことは大変有意義なことと思っている。

そうした中で、埼玉北部も特に児玉地域は、これから少子高齢化への対応が待ったなしという状況の中で、藤岡構想区域が推進区域としてエントリーされることは私どもとしても大変歓迎したいと思っている。この流れを、現場だけでなく、県レベルでも情報共有しながら進めていければと思っているので、どうか御協力をいただきたい。

(部会長)

モデル推進区域は国が選定することになるが、選定されれば、技術的支援、財政的支援を受けられるメリットがある。私は、推進区域に設定する方向で調整を進めたいと考えている。ベッドがうまく稼働して、住民の役に立っていると国が判断した場合には、ベッドを減らすことは考えないということだと思う。

私が一番心配しているのは鬼石病院で、医師が不足している状態でベッドが有効に活用できるのかということ。ベッドの稼働率はパーセンテージだけ上げるのではなく、医師が潤沢にいて、患者のために動けるような状態にしないといけない。医師数／ベッド数 でいえば、鬼石病院は低すぎると思う。

逆に、藤岡総合病院はかなり高い。医師がエンジンだとすると、エンジンが少なれば船は進まない。住民の役に立つ病院というのは、やはり医師がいなくてはいけない。集めようと思ってもなかなか来てくれない。やはり藤岡市が腰を上げなければいけない。今回のモデル推進区域を利用して、これは私の私見だが、藤岡総合病院の広域医療圏の中に、鬼石病院、埼玉県北部圏域も入って、県をまたいだ運営のような思いきった改革をしなければ、人口減の中でこれからの10年20年を乗り越えられない。

他の病院も、一生懸命特性を生かして頑張っておられる。ターゲットはやはり鬼石病院になってしまう。エンジン（医師）がないと動かなくなってしまう。だからこそ、これを利用して、ローテーションでもいいから医師が回ってこられるような体制にしたい。藤岡市の力が必要で、藤岡総合病院がこれからどう考えて決断していくかということも重要である。地域医療構想がこれらの問題を含めてうまくいくといいと思っている。

途中で変な方向に進むようであれば医師会も声を上げるのでご安心ください。こういう話をいただいたというのは、非常にありがたいこと。埼玉北部も手挙げしたというので、これから価値観を共有してよい方向に進めて参りたい。児玉地域の方々は、橋が少ないのに廻り道して通院してくれる。群馬県とか埼玉県とか関係なく、県境を越えて同じ医療圏とする全国初のモデル地区みたいなものが作り上げられれば理想かなと思っている。

以上